

# (仮称) 新陶芸センター・道の駅

業務名：(仮称) 新陶芸センター・道の駅建設工事及び瀬戸谷温泉施設改修工事実施設計業務委託

委託者：藤枝市役所 建築住宅課

設計者：株式会社高橋茂弥建築設計事務所（基本設計・実施設計）

業務：新陶芸センター棟および道の駅棟、回廊、バス停、車椅子駐車場の新築 既存施設（瀬戸谷温泉ゆらく）一部改修

備考：現在、分離発注の造成工事中（2026年3月完了）



2025年9月時点 敷地上空より

## ■ 設計趣旨

陶芸体験者と陶芸家のための「新陶芸センター」、藤枝市の中山間地域における特産物を扱う「道の駅」、来訪者、地域住民に長年愛され続けている既存の温泉施設「瀬戸谷温泉ゆらく」、その三棟をまとめる「ふじえだ陶芸村構想」に基づき、本計画を行った。瀬戸谷温泉ゆらくは20年前に温泉が湧き、県内外問わず人々が訪れる人気施設である。また設計担当者の地元であり、開業当時から利用していたが、人が途切れたところを見たことがない。旧陶芸センターでは陶芸体験ができ、利用者は年々増加し、2023年には年間1万人を超えた。それらをまとめ、利用者のさらなる増加を行い、地域の魅力向上、定住促進を可能とする施設が求められた。

計画ではまずに既存の「場所性」に着目した。藤枝市瀬戸谷地区は山間に住宅が点在し、中心地となるような場所はあまりない。その中で当計画地は、地域内外問わず地域住民が自然と集まるサードプレイスとなっていた。そこで、ここに集まる人々が自然と新しい施設の中にも参画していけるように「陶芸による融和」を基本理念として設計を行った。敷地全体で陶芸を主として構築しており、そこに訪れた人、場所性を求める地域住民がそれぞれ活動の中で融和し練りこまれていくことで、この地区の活気がひとつの陶芸作品のようになっていく。

新陶芸センターは正方形を30度ずつ回転した平面計画とし、施設利用者を陶芸家、体験者、管理者の3属性に分けることで、それぞれに適したゾーニングを行った。星型多角形の平面は少し囲われた軒下空間を形成することで、瀬戸谷温泉ゆらくに見られた「場所性」の再現を試みた。道の駅は、4本の柱によって陶芸作品の展示エリアを形成し、外観は「ゆらく」との調和を図った。建物は外部に開かれた形状とし、高さを抑えることで気軽に立ち寄れる構えとするとともに、内部には開放的な大空間を確保している。もともと農産物直売所として地域住民が自然に集い、交流する場であったため、その親しみやすさを継承した。回廊部には、来訪者や地域住民の目に自然と陶芸が触れるよう外部展示空間を設けた。これは「陶芸家が1作品を寄贈する」仕組みを取り入れ、信楽の森のように年々新たな作品が加わることで、施設全体が釉薬のように少しずつ彩られていく構成としている。

新陶芸センターは、高い集客性を確保するために、シンボリックな形態が求められた。平面計画から屋根を構想する際、「陶芸による融和」という考えを建築操作に取り入れ、十二角形の各頂点から平面中央の柱へと梁を架けた。さらに、その梁をわずかにずらしながら交差させることで、互いを支え合う構造とした。この仕組みにより、屋根と天井は中心へと向かって混ざり合うような形態を表現している。

この場所では、融和していく多様な活動が各所へ発信され、やがて再びここに戻ってくる。そのような循環を持つ施設となることを意図して設計を行った。それはまるで陶芸作品が形成されていく過程——練りこまれ、形づくられ、釉薬で彩られる——のように、建築全体でそのプロセスを表現している。



2025年9月時点 敷地上空より

## 愛されつづけた「瀬戸谷温泉ゆらく」と融和する新施設

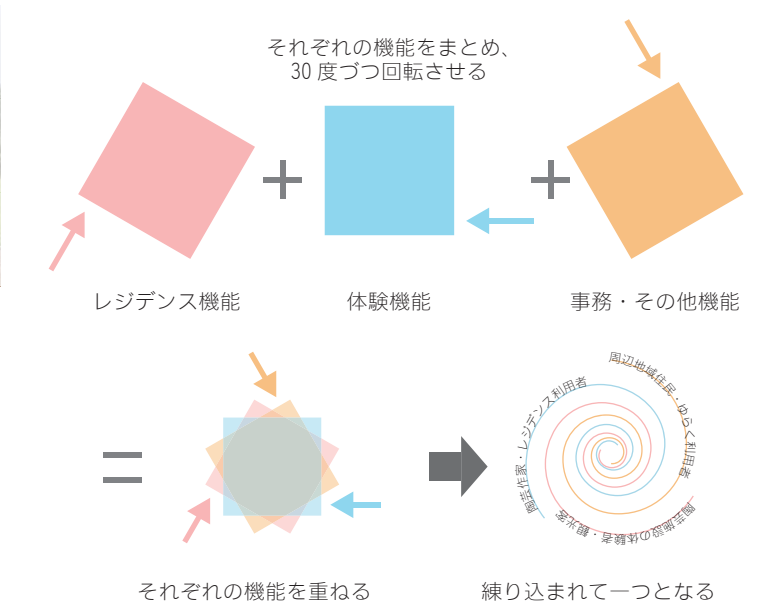
### ■瀬戸谷温泉ゆらく（既存施設）と新施設との関係



「瀬戸谷温泉ゆらく」には、性別・年齢・目的を問わず、縁側に集まる場所性（サードプレイス）が形成されている。

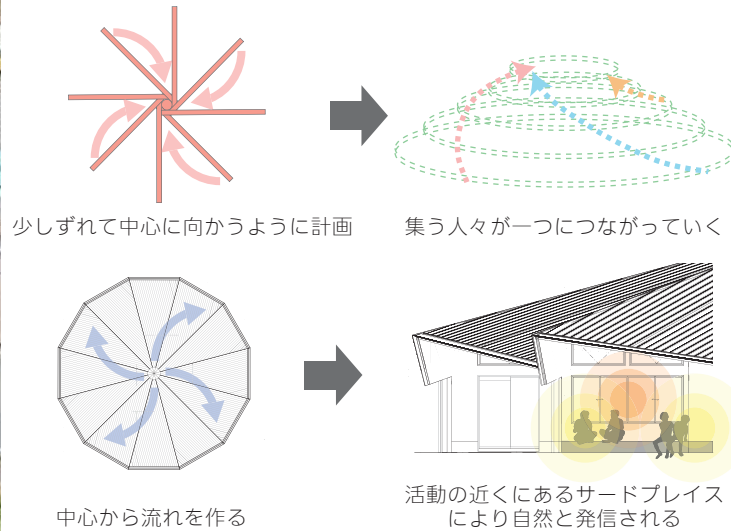
「瀬戸谷温泉ゆらく」では、温泉利用者だけではなく、地域住民が自然と集まれるサードプレイスとしての利用がされている。新施設を計画する際に、この場所性を拡張し、コミュニティ形成の拠点となる施設を目指す。また陶芸村の拠点整備により、「地域・住民・陶芸家」が密接に関わり合い、一体となって活動する施設を目指している。ここでの活動が様々なヒト・モノと掛け合わさり、この場所性を有する既存施設と融合することで、新たな魅力を創出し、「ふじえだ陶芸村」を形成していく。この場所に集う地域住民に新たな豊かさを提供していこう。

### ■様々な属性が重なり、融合していく平面計画



様々な属性を持つ人が、それぞれに合わせた利用を行い、その営みが練り込まれていき、一つのカタチとなる施設。

### ■人と人が同調し、一つとなり、発信されていく



屋根形状・架構形状により、施設を利用する人々の活動が自然と混ざり、一つのカタチとして発信することができる。

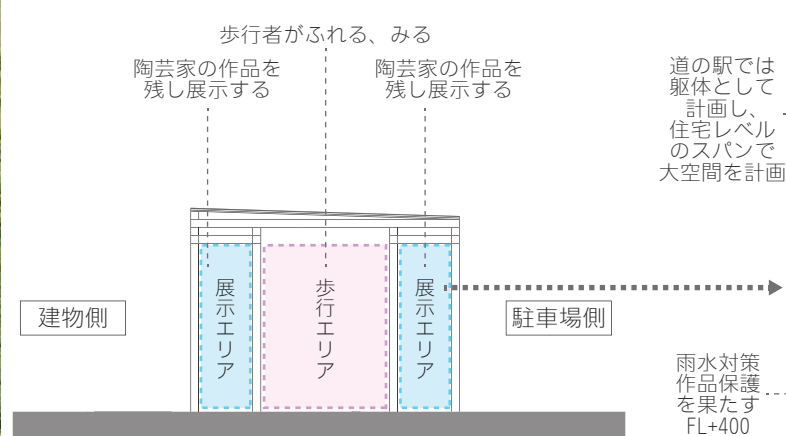
### ■親しまれてきた空間を継承した道の駅



「瀬戸谷温泉ゆらく」の軒下空間「ちよっくら」の開放的な作りの二つを継承した道の駅

「瀬戸谷温泉ゆらく」では、軒下空間を作ることで、内外の空間に落ち着きのある空間を形成していた。その空間を継承し、誰もが利用しやすい新陶芸センター及び道の駅を計画した。農産物直売所は、既存の「ちよっくら」のように、壁をあまり設けない開放的な作りとし、新設後も、地域の人を中心に、気軽に立ち寄れる場所となるように計画した。できるだけ整った外観とすることで、「瀬戸谷温泉ゆらく」の外観や、周辺環境に調和した外観デザインを行う。

### ■陶芸によってつながり、発信されていく



回廊構成図

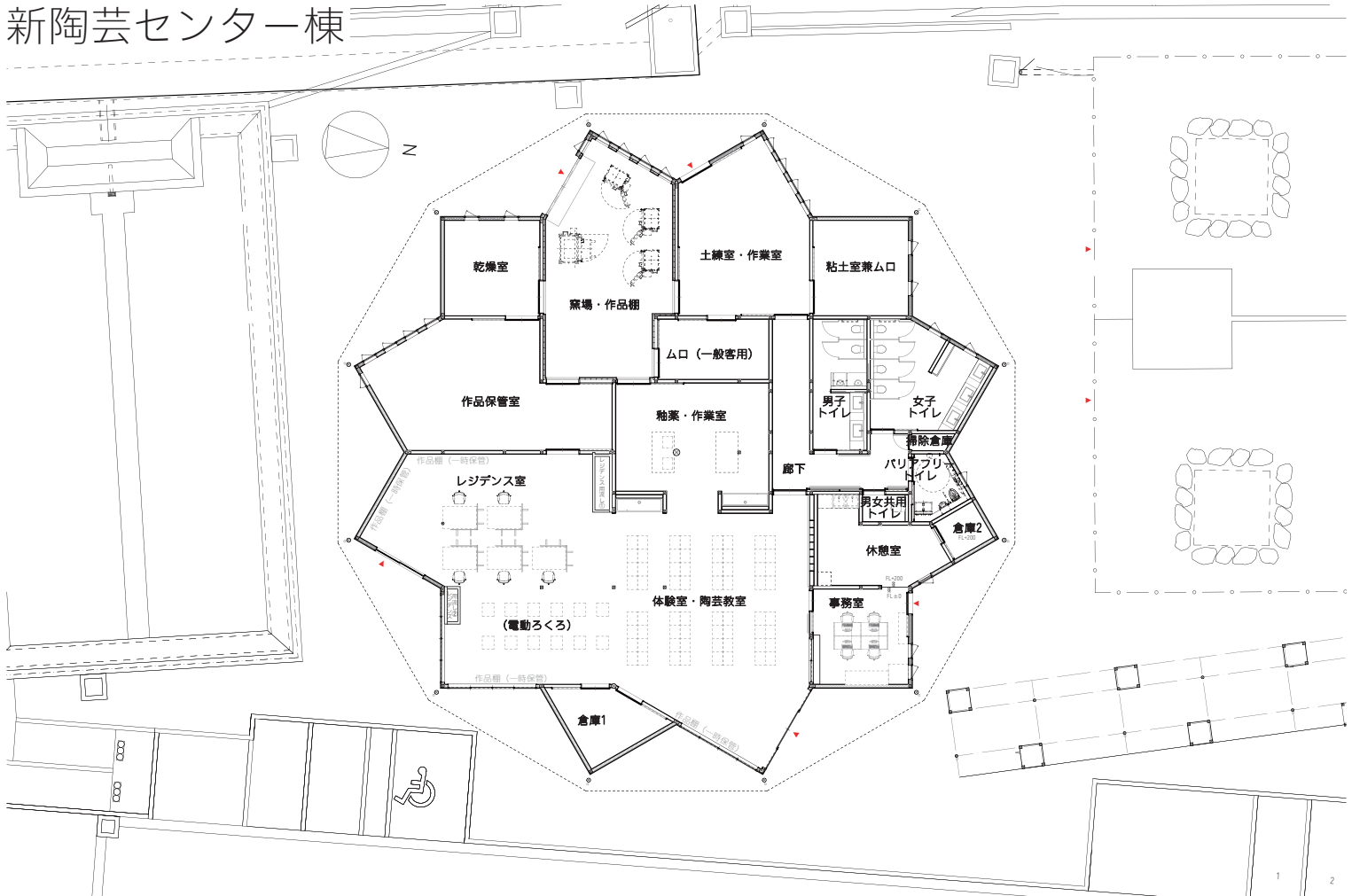


道の駅・回廊などに共通する陶芸の展示スペース

回廊は、動線的・行動的にリンクするように「瀬戸谷温泉ゆらく」・新陶芸センター・道の駅の三つを繋いだ。道の駅と回廊にある4本柱の空間は、新陶芸センターのAIR事業にて制作された陶芸を展示することで、陶芸村としての一体感の醸成する共に、陶芸への興味を持つきっかけを作る。また施設間をつなぐ設備配管を回廊の下に計画することで、メンテナンス性にも配慮した。

陶芸作品の展示棚道の駅や回廊など四本柱の位置に設置可能

新陶芸センター棟



平面図 1:300



新陶芸センター：外観



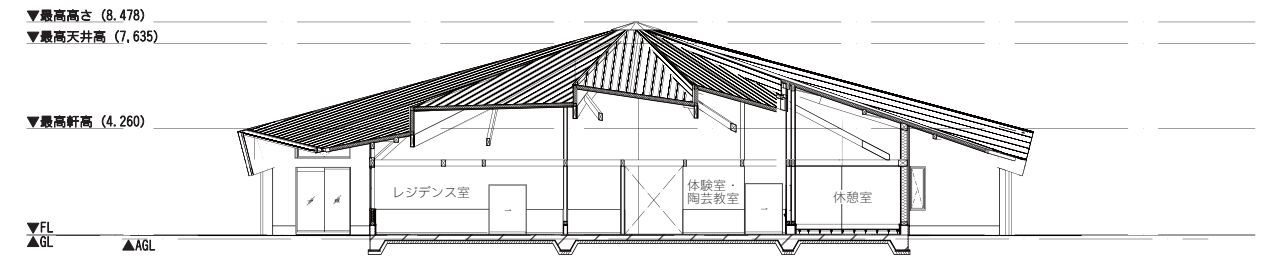
新陶芸センター：体験室・陶芸教室



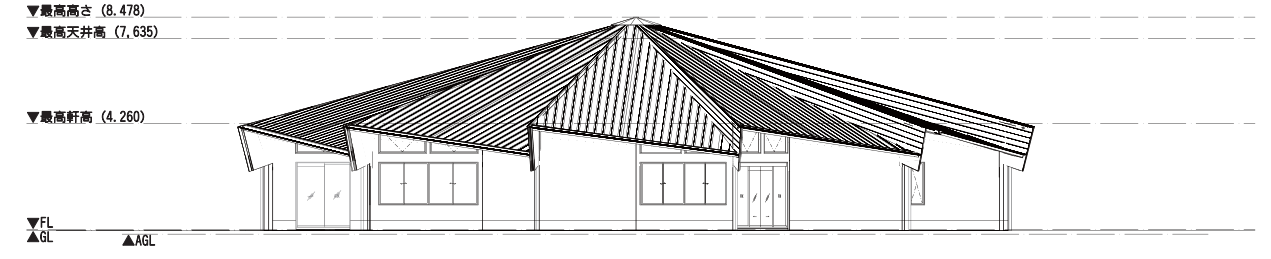
新陶芸センター：レジデンス室



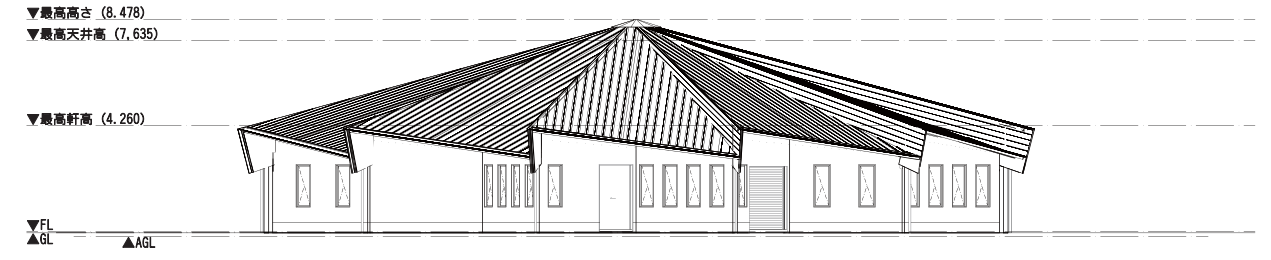
新陶芸センター：釉薬室



断面図 1:300

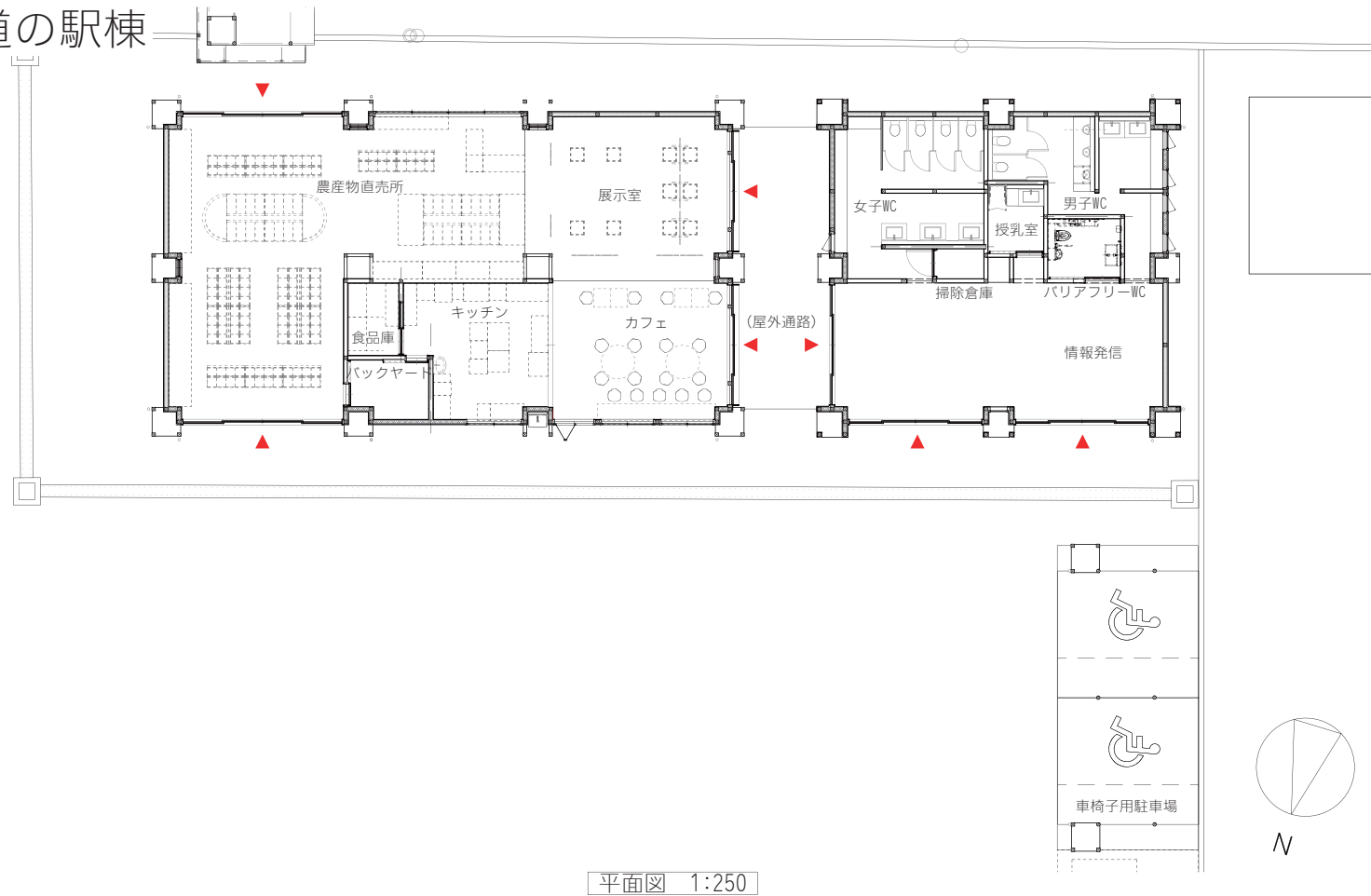


東立面図 1:300

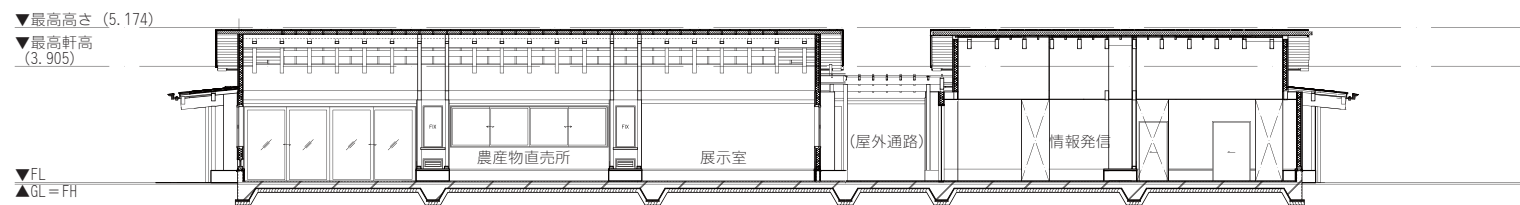


西立面図 1:300

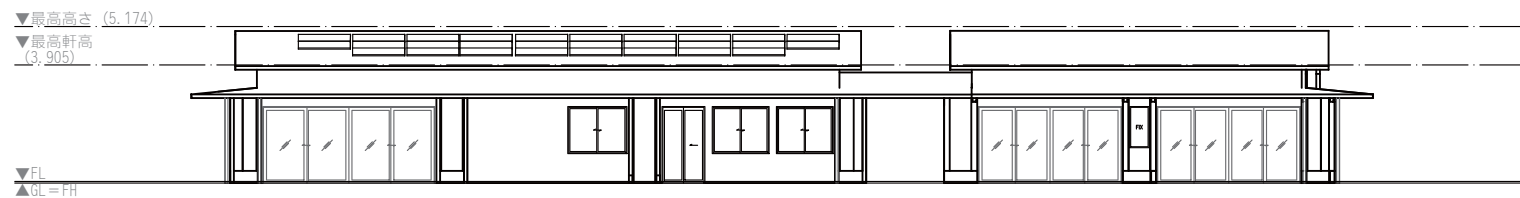
道の駅棟



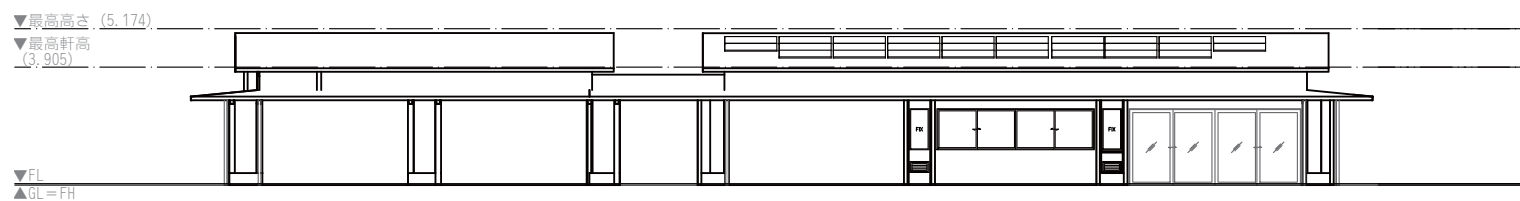
平面図 1:250



断面図 1:250



北立面図 1:250



南立面図 1:250



道の駅：外観



道の駅：農産物直売所



道の駅：農産物直売所 - カフェ側